

主 題：救世主生まれる

聖書箇所：マタイの福音書 1章21-23節

マタイの福音書1章21節のところからご覧ください。私たちがよく知っている箇所です。主イエス・キリストの誕生が記されているこの箇所、これまで私たちは2週間に亘って、救世主誕生に関する預言を見て来ました。今日、私たちが見ようとしているマタイの福音書1章は、その成就が記されています。

A. 約束の救世主の誕生 21 a 節

1. 「男の子」誕生の告知

21節の初めにはこのように書かれています。「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。」と。「男の子を産みます。」と、これは預言の成就です。すでに見て来た創世記3：15でもイザヤ9：6でも、まさにそのことを預言していました。

1) 創世記3：15 : エデンの園にいたアダムとエバ、サタンの誘惑によって彼らは罪を犯しました。その時に神が約束されたこと、この蛇と女との間に、蛇の子孫と女の子孫との間に敵意を置くということでした。まさにそれが実際に起こりました。アダムとエバが救いに与ることによって、サタンと彼らとの間に再び敵意が生じました。そして、サタンの子孫、つまり、サタンを信じサタンに従いつづけている、イエス・キリストを信じないイエスの敵たちと、神の恵みによってイエスを信じて救いに与るクリスチャンたちとの間には敵意が存在している。そのことは歴史が証明しているということを見て来ました。そして、この預言はひとりの男子がサタンの頭を踏み砕くと、サタンに対する完全な勝利、サタンが完全な敗北を経験することが預言されていました。それはあるひとりの男子によって…と。

2) イザヤ9：6 : 一人の男子が与えられることが預言されていました。「ひとりのみどりご」、「ひとりの男の子」と、そのように記されていました。どちらも男性名詞であり、しかも、単数である。だから、「ひとり」ということばが補われているということを見ました。イザヤが預言したのです。必ず、将来、あるひとりの男子がこの世に生まれると。このイザヤ9：6が私たちに教えていました。「生まれる」「与えられる」という動詞はどちらも受け身で書かれていることを。ある時に生まれた方が後にイザヤが預言した「人となられた神」になるのではなく、このことは神のみわざであって、神ご自身が男子をこの世にお与えになると、そのことを見て来たのです。

マタイ1：21で「マリヤは男の子を産みます。」と、御使いはここで明確にその男の子がだれなのか？ 預言されていた男の子がだれなのか？ しかも、だれから産まれるのか？ そのことを告げています。

2. 「イエス」と名付けられた

そして、その男の子の名前が「イエス」になるということが御使いによってヨセフは知らされます。この名はヨセフが命名したものではありませんでした。御使いによってヨセフにこのように告げられたのです。「イエス」とはユダヤ人の名前では「ヨシュア」です。ヨシュア、モーセの後継者であり、また、エズラ記の中にも一人のレビ人の名前が「ヨシュア」と記されています。このヨシュアのギリシャ名が「イエス」です。ヘブライ語では「ヨシュア」、ギリシャ語なら「イエス」です。

この名前の意味は「主は救い」です。旧約聖書の時代ではこの「ヨシュア」は一般的な名前でした。また、初代教会においても「イエス」という名が付けられた人が出て来ます。たとえば、ルカの福音書にはヨセフの家系図が出て来ますが、3：29に「ヨシュアの子」とありその家系にその名の人が出たことが記されています。新改訳聖書のこの箇所の欄外を見ると、「ヨシュアの子」ギリシャ語「イエス」と記されています。また、コロサイ書4：11には「ユストと呼ばれるイエスもよろしくと言っていきます。…」とあり、「イエス」という名は一般的だったのです。

人々はこのヨシュア・イエスの到来を待望していました。主が罪からの救いを私たちにもたらしてくれると。詩篇130：7, 8に「:7 イスラエルよ。【主】を待て。【主】には恵みがあり、豊かな贖いがある。:8 主は、すべての不義からイスラエルを贖い出される。」とあります。この「主」は「ヤーウエー」というヘブライ語が使われています。神のことです。神がイスラエルの罪を除いてくださると。ですから、当然、人々はそのことを期待し、それを待ち望んでいました。多くの人々が「イエス」、ヨシュアという名前を付けたのは、そのことを期待したからです。しかし、イエスの誕生を見たときに、この名前を付けるようにと指示を出したのは人間ではありませんでした。主の使いが「産まれて来る男の子の名をイエスと呼びなさい。主は救いと呼びなさい。」とヨセフに告げます。そこには特別な理由があったことは言うまでもありません。

*約束されていた救世主がお生まれになる。その目的についてマタイが続けて教えてくれる

B. 約束の救世主のみわざ 21b節

「この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」、主の使いが告げたことは、この産まれて来る男の子、この方こそが「ご自分の民をその罪から救ってくださる」、すなわち、救世主である、だから、この方は「イエス」と呼ぶにふさわしいお方であるということです。そして、確かに、ここに記されている通り、主イエス・キリストは私たち人間のために、罪人のために完全な救いを備えてくださいました。どのようにして主はそれを備えられたのか？ご自分の身代わりの死をもって罪からの救いを備えてくださったのです。ヘブル書9：26をご覧ください。「もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。」。

旧約聖書の時代、人の罪を赦すために神が人間に要求されたことは「いけにえ」をささげることでした。そのことは主エジプト記29章、レビ記、民数記15章にも記されています。罪を犯せばその罪を赦していただくために「いけにえ」をささげたのです。それは罪を犯した人が受けるべき罰を代わって動物に受けさせるといふ、まさに、身代わりだったのです。神に対して罪を犯した人が受けるべき罰は「死」です。永遠の死です。そのために人々は自分に代わって動物を殺して、そのいのちをもって罪の赦しを神に求めたのです。しかし、聖書が教えるように、動物のいけにえでは人の罪を、一時的には赦せても、完全にまた永遠に赦すことができなかった。

ですから、ヘブル10：4をご覧ください。「雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません。」とあります。確かに、そのときの罪のための贖いは為されたとしてもまた罪を犯すわけで、そのときにまた贖いをしなければならぬ、そうして、人々は繰り返していけにえをささげ続けたのです。というのは、そのいけにえが完全ないけにえではなかったからと聖書は言います。同じ10：11にはこのように記されています。「また、すべて祭司は毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それらは決して罪を除き去ることができません。」、これしか方法がなかったのです。自分たちの罪を赦していただくために神が定めたことは「いけにえをささげなさい」で、人々はそのようにいけにえをささげ続けていたのです。彼らは知っていました。このささげるいけにえが自分のすべての罪を赦すものではないことを。だから、彼らは永遠の救いをもたらしてくれる救世主を持ち望んだのです。

主イエス・キリストはこのように言われています。ヘブル10：5-7「:5 ですから、キリストは、この世界に来て、こう言われるのです。『あなたは、いけにえやささげ物を望まないで、わたしのために、からだを造ってくださいました。:6 あなたは全焼のいけにえと罪のためのいけにえとで満足されませんでした。:7 そこでわたしは言いました。『さあ、わたしは来ました。聖書のある巻に、わたしについてしるされているとおり、神よ、あなたのみこころを行うために。』」、つまり、人々がささげた動物のいけにえは完全に人間の罪を赦すものではなかった、動物のいけにえは罪人の罪を永遠に赦すものではなかったということです。ですから、主が言われたように、神は「わたし自身にからだを与えてくださった」のです。10：10を見てください。「このみこころに従って、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。」、10：14「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。」。

この著者が言っていることは、動物のいけにえは確かにその時に犯した罪の赦しを得ることはできたが、罪を犯す度にいけにえをささげ続けていかなければならなかったということです。しかし、イエス・キリストがいけにえとしてささげられたご自身のいのちは、人間の罪を完全に永遠に赦すことができる、そこが違うのだということを行っているのです。ですから、そのために主はからだをいただいたのだと。

なぜ、イエスのいけにえは他の動物のいけにえとは違うのでしょうか？なぜ、動物のいけにえは罪を完全に赦すことができないのに、主イエスのいけにえは完全に赦すことができるのでしょうか？

☆主イエスのいけにえがあなたの罪を取り除くことができる理由

1. 罪がないお方だから

主イエス・キリストには罪がなかった。Iペテロ2：22-24をご覧ください。「:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」、ペテロはここでイエス・キリストのうちには何の罪もなかったと言っています。3：18には「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちが神のみもとに導くためでした。」とあります。ですから、ペテロが私たちに教えることは、主イエス・キリストのいけにえが他の動物のいけにえと全く違うところは、主イエス・キリストには罪が一つもなかったこと、この方のうちには罪のかけらもなかった、正しい方であった、すべてにおいて聖い方であった、その方が私たち

罪人の身代わりになってくださったということです。

なぜ、イエス・キリストのいけにえがこれだけの効力をもっているのか？私たち人間の罪を完全に永遠に赦すことのできる効力をもっているのか？罪がないだけではありません。

2. 救い主だから

このお方は救い主だからです。そのようにみことばは私たちに教えてくれます。ローマ5：10に「もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」、つまり、主イエス・キリストのいけにえの効力は、私たちと神との関係を全く新しくするものだ、パウロが言うように「敵であった私たちが」と、もしかすると、このメッセージを聞かれて驚かれる方がいらっしゃるかもしれません。聖書が私たちに教えていることは、生まれながらの人間はみな神の敵だということです。神に逆らい続けている、神の敵として生きている、だから、神のさばきを受けるのだと言います。

しかし、感謝なことは、このイエス・キリストのいけにえは敵対関係にあった私と神との関係を根底から変えるものだ、そこに完全な和解をもたらすものだ、パウロは教えています。また、同じようにパウロはコロサイ書1：22でこのように言います。「今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。」、主イエス・キリストが人としてお見えになり、そして、十字架で死んでくださった。私たちのいけにえとして主がご自分のいのちをささげてくださった。どうして、このいけにえにこれだけの効力があるのか？彼には全く罪がなかった、だからこそ、彼は私たちの身代わりになれたのです。罪のない方が罪ある私たちの身代わりとなってくださった。罪を犯しては身代わりとなることはできません。

そして、このお方は自ら進んでご自分のいのちを捨ててくださった。なぜなら、この方がこの世に来られた目的は、私たちをその罪から救い出して完全な救いを与えるためです。救世主であったから信じるすべての人に完全な救いを与えることがお出来になると、そのようにみことばは教えます。罪のないお方だからこそ私たちの身代わりとなって死ぬことができ、救世主だからこそ、私たちをその罪から救い出すことができるのです。

また、もうひとつ、このように言うことができます。主イエス・キリストが十字架で死んでくださった、ご自分をいけにえとしてささげてくださったことによって、神の怒りをなだめることが可能になりました。これはヨハネがその手紙の中で私たちに教えることです。恐らく、皆さんもよくご存じのみことばでしょう。Iヨハネ4：10「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」、「なだめの供え物」だと言います。ヨハネが私たちに教えることは、私たちは神の怒りをなだめなければいけないということです。つまり、神は私たちの罪に対して怒っておられるということです。皆さん、どうぞ、私たちの神を誤解しないでください。何をしても赦してくださる方？確かにそうです。でも、この方はあなたの罪を見ない振りをする方ではありません。この方は聖く正しい義なる神であって、どんな罪をも必ずさばかれる方です。私たち人間が覚えなければいけないことは、この神はあなたの罪に対して怒っておられるということです。聖い正しい神が、ことごとく主のみこころに逆らって生きているあなたに怒りをもっているということです。私たちが覚えなければならぬ神の姿は、余りにも聖い正しい方であるゆえに、どんな罪に対しても怒りをもっておられる義なるお方です。

主イエス・キリストがこの世にお見えになったときに、ご自分の罪のないからだをいけにえとしてあなたのためにささげてくださった、あなたに対して神がもっておられるその怒りをなだめるために。この主イエス・キリストがあなたに代わってご自分のいのちを捨ててくださったことによって、神はあなたに対する怒りを静めてくださり、そして、赦してくださるのです。なぜなら、このイエス・キリストのいけにえがすべての点において完全だったからです。すべての点で神を満足させるものだったからです。ですから、みことばが私たちに教えることは、「なだめの供え物」としてイエスはご自分をささげてくださり、神はそのささげものを良しとされ、その怒りを静めてくださるということです。この「なだめ」というのは、「怒りを和らげる、救いの手段」という意味をもったことばです。そのことばがここで使われているのです。

皆さん、イエス・キリストが、罪のないお方が救い主なるお方が、あなたの罪を負って十字架で死んでくださらなければ、あなたには救いの手段が全くなかったということです。あなたの罪を赦すためにはこの道しかないのです。あなたの罪を赦し、そして、あなたに対する神の怒りをなだめるためには、ただ一つの方法しかなかったのです。それは罪のない方があなたの身代わりとなって死ぬことでした。罪のないお方は神しかない、そこで、神が喜んで人として来てくださり、罪のない方が十字架の上であなたのすべての罪を負って罪人として死んでくださった。あなたが受けるべきさばきをすべて受けて

くださった。あなたの罰を主はあの十字架の上で受けてくださった。この方法だけがあなたの罪を赦す方法でした。主はそれを自ら進んであなたのために為してくださったのです。だから、イエス・キリストのいけにえはあなたの罪を完全に永遠に赦すその力が、効力があるのです。

今日のテキストにもう一度戻っていただいて、マタイが私たちに教えることは、主イエス・キリストがお生まれになったということは、旧約聖書のみことばが約束していた、預言していたその救世主がいかにこの世にお見えになったということ、そのことを先ず明らかにしました。待望の救世主がお生まれになった、この方が真に私たち人間の罪を完全に赦してくださる方、不義を聖めてくださる方であると。
***このお方こそ、その名「イエス」にふさわしいお方、この方だけが私たちに救ってくださるお方！**

そのことを語った後、このように続いています。

C. 約束の救世主である証拠 22, 23節

「:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。」、見て来たように、確かに、イエス・キリストの誕生は偶然ではなかった、すべて神が約束された通り、ご計画された通りでした。そのことをマタイはこのように教えているのです。そして、このように続きます。23節「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)、こうして、このマタイの福音書は私たちに、確かに、23節のみことばはイザヤ書7:14のみことばの引用ですが、その約束されていた方がこの世にやっと来てくださったと言うのです。神の預言の成就であったことを明らかにするのです。

☆処女降誕 23節

23節では「処女降誕」と言われる非常に大切なことが私たちに教えられています。多くのクリスマスキャロルもそのことを歌っています。私たちもよく歌う讃美歌111番「神の御子は今宵しも」と…。感謝なことに、2番の歌詞は差別用語の関係で変えられて、今は「おとめマリヤ母として生まれまししみどりごは、まことの神、きみの君、いそぎゆきて拝まずや、いそぎゆきて拝まずや」と、以前の歌詞よりもはるかにすばらしい訳になっています。「おとめマリヤ母として」、ここで教えているのは処女マリヤを通してこの方はお生まれになったということです。

1. その証拠 1:18-20

なぜ、そのことがそれ程までに大切なのか? 18節からご覧ください。「:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。:19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうちであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」、ヨセフはいいなずけのマリヤの妊娠を知りました。パークレーがおもしろい情報を与えてくれます。「ユダヤ人の結婚の三段階、まず、婚約に始まる。婚約は一般的に子どもがまだ小さい時に両親たちによってその結婚が決める。それが決まると婚約したことになる。婚約は破棄することができたが、婚約を承認した場合は二人はいいなずけになった。このいいなずけの期間は一年間でその後結婚式を開く。このいいなずけの期間はカップルは夫婦と見なされる。いいなずけとなったカップルはその関係を離婚以外には解消することができない。」と言います。このようなユダヤ人の結婚のきまりというものがあるわけです。私たちは「いいなずけ」ということばを聖書の中でよく見ます。18節には「マリヤはヨセフの妻と決まっていた」と書かれています。こういうユダヤ人たちの結婚の背景があるのです。

でも、この箇所を読むときに、ヨセフは自分のいいなずけであるマリヤが妊娠しているということを知ったということが分かります。だから、彼は彼女と離縁しようとするのです。いろんな方法がありました。彼女は清さを守らずに約束を破ったわけですから、人前に連れて来て辱めを与えることもできたのです。ところが、みことば言うように「ヨセフは正しい人であって、」と、神を恐れる者であったゆえに、彼はその道を選択しないで、内密に人が知らないうちに去らせようと、彼女と離婚しようとするのです。ですから、このことを見る時私たちに分かることは、マリヤの妊娠というのが事実だったということです。そして、その父親がヨセフではなかったということです。だから、ヨセフはこのような選択をしようとするのです。

そのときに、御使いがマリヤの妊娠についてヨセフに教えるのです。主の使いが告げたことは「マリヤの懐妊は聖霊によるものである」ということでした。それを聞いたヨセフはとても驚いたでしょう。しかし、主の使いがそのことを彼に告げ、そして、ヨセフはこの後、離縁することなく彼女を迎えています。つまり、ヨセフはこの主の使いが言ったことを受け入れたということです。このようにマタイは主の降誕について教えてくれています。

2. ルカの証言 ルカ1:1

もう一箇所見たいのはルカの福音書です。1章を見てください。マタイの福音書1章では、このイエ

ス・キリストは約束の救世主であること、その証拠として、聖霊によってマリヤは彼を身ごもったということ、その「処女降誕」ということを教えていると見ました。「ルカの福音書」を記したルカはギリシャ人です。ご存じのように、彼は医者でもありました。ですから、ギリシャ人らしい文を記しています。皆さんの新改訳聖書を見ると、1節と2節がいっしょになっています。「:1 2 私たちの間ですでに確信されている出来事については、初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、多くの人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、」と、いかにもギリシャ人が書いたという文章です。くどいのです。実は、1節と2節をきちんと分けるとこうなります。

「:1 私たちの間ですでに確信されている出来事については、多くの人が記事にまとめて書き上げようとすでに試みておりますので、」

と、これが1節です。ルカが書いたのは長い一つの文章です。句読点が付いていません。明らかに、これはギリシャ人が、文章に長けた人が書いたかのようです。2節は、

「:2 初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを」となり、こうして1節と2節を並べると日本語としておかしいので、新改訳はこれを二つにして書き上げたのです。ですから、この1節から4節を見ると、ここではギリシャ人として洗練されたギリシャ語が使われています。ところが、皆さん、5節から見ていただくと、どちらかと言うと、ユダヤ人的な表現が出て来ます。

このことに関してジェームス・ボイスという著名な牧師はこのように言っています。「この序論が終わるやいなや（つまり、4節までですが）、ここに新約聖書で最もセム語的箇所の一つを見出す。」と。セム語というのはヘブライ語やアラム語という諸言語です。ですから、明らかに、この1節から読んでいくと、そこに書かれているこのギリシャ語と、5節から2章の52節までに使われているギリシャ語とはどうも違うのです。今見ている1章5節から2章52節までの箇所と、ルカが記した他の箇所に記した文体が異なることに関して、何が考えられるのか？ ボイス先生はこう言います。「1章5節から2章52節までの記事は、アラム語、もしくはギリシャ語でない情報源から得たということである。」と。なぜ、そう言いきれぬのか？ 1章3節を見てください。「私も、すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。」と、ルカ自身がいろいろな出来事に関して、特に、イエスの誕生に関して、いろいろな人たちに話を聞いて、そして、その事実をまとめ挙げてここに記したと言っているのです。

ですから、このイエスの誕生に関しては、ルカが3章から使っているギリシャ語と異なっているのです。彼は関係する人たちにインタビューをしてそれをここに記しているからです。ルカはいろいろな人々に話を聞いたのです。皆さん、少し考えてみてください。主イエス・キリストの誕生に関して、一番先にだれに聞いたら正確な情報を得ることができると思いますか？ マリヤですよ。まだこのときに生きていたからです。私たちもそうします。当事者に聞くのが一番正確な情報を得る方法です。だから、このルカの福音書の中に出て来る記事を見たときに、それは他には出て来ていないものです。

・ザカリヤと主の使いのやりとり（エリサベツにヨハネが与えられること） ルカ 1：5－25

・マリヤと御使いガブリエルのやりとり 1：26－38

一**処女降誕の告知**—があります。マリヤ自身がそのことに驚いています。「どうしてそのようなことになりえましょう。」（1：34）と。

・マリヤとエリサベツのやりとり 1：39－56

・エリサベツの出産の出来事 1：57－80

・ヨセフとマリヤがナザレからベツレヘムに行ったこと 2：1－5

・主イエスの誕生の出来事 2：6－20

・主イエスの割礼 2：21

・主イエスをささげるためにエルサレムへ行ったこと 2：22－24

2：22「きよめの期間が満ちたとき、」、女性は出産後40日間は汚れていると言われたのでその後のことです。

・敬虔な人シメオンと女預言者アンナとの出会い 2：25－40

・主イエスが12歳の時に起こった過越しでの出来事 2：41－52

だれからこんな話を聞いたのか？ マリヤです！ これらはマリヤが知っていること、マリヤが経験したことです。

このルカの福音書は私たちに、イエス・キリストの降誕はまさにこのような出来事であったと記しています。そしてまた、この箇所が私たちに教えてくれることは、主イエス・キリストは私たちが誕生するのとは違ったということです。両親から生まれたのではなかったのです。神がマリヤを通してこの男子をこの世界に与えてくださったのです。それは先ほども見たように、あなたの罪を除くために完全な

いけにえとしてご自分をささげるためにです。あなたに完全な永遠の救いを、罪の赦しをもたらすために、この方はおとめマリヤから生まれてくださったのです。そして、この罪のない方の犠牲があなたや私をその罪から完全に救うことができるというのです。

【結論】

確かに、主イエスは「インマヌエル」と呼ばれるにふさわしい唯一のお方です。マタイはイザヤ書7章のみことばを引用していました。「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのししを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」（イザヤ7：14）と。その意味は「神は私たちとともにおられる」でした。このことは何を意味しているのか？神がこの世に来てくださった。創造主なる神が私たちの間に来て、私たちの間に住んでくださった、そういう意味です。神は私たちとともにおられる、私たちのうちに住んでいてくださるのです。もちろん、創造主なる神は遍在のお方ですから、どこに行っても神の臨在から逃れることはできません。宇宙の果てに行ってもそこに神はおられるし、黄泉に下ってもそこに神はおられる。神の目から逃れることのできる場所はどこにもないと聖書は教えています。でも、そのことを言っているではありません。この「インマヌエル」というのは、その遍在の神、すべてをお造りになった真の神が私たち人間の世に来てくださり、私たちの一人としてともに住んでくださった。そのことは彼が神であるということだけでない、完全な人間だということを私たちに教えてくれます。だから、十字架に架かることができたのです。

思い出してください。前回、私たちはイザヤ書9：6を見ました。約束されたひとりのみどりご、ひとりの男の子は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」と。まさに、その方が人として来てくださったのです。神が私たちの間に来て、私たちの間に住んでくださった。何のために？あなたや私を罪から救い出すためにです。この方法しかなかったゆえに、神が人となってこの世に来てくださり、その罪のないいのちを犠牲にして罪あるあなたを救おうとされたのです。だから、天使たちは大声でこの偉大な神をこの愛とあわれみに満ちた神を誉め称えました。

賛美した理由が分かります。なぜ、天使たちがこの神を誉め称えたのか？この救いは自分たちのものではないのです。天使たちに救いはありません。しかし、ここまでして完全な救いを成し遂げられたこの神、この完全な救い主を約束通りにこの世に送ってくださった。この神のすばらしいみわざを天使たちは心から誉め称えました。確かにすごい神です。こんなに大きな犠牲を払ってまでも私たちをその罪から永遠のさばきから救おうとしてくださったお方です。

この救いに与った皆さん、神がここまで犠牲を払ってあなたを救ってくださったのは、あなたがキリストの証人として人々を弟子とし、彼らを成長させるためです。主イエス・キリストが大命令を与えている様子がマタイの福音書の最後に出ています。マタイ28：19-20を見てください。「:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」、これがこの大命令の最も中心的な教えです。皆さん、あなたには弟子がいますか？つまり、あなたが伝道し、その人が救いに与り、その人をしっかり訓練して、その人が人々に証をするように成長する、そういう弟子を作っていますか？それがこの大命令で主が私たちクリスチャンに命じられたことです。「そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」、しっかり伝道し、救われた彼らにみことばに従うように教えていきなさいと。

そして、最後にこのように言われます。「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」と。この働きを為すために神は「わたしがともにいる。あなたがこの働きをするためにわたしが側にいる。」と仰ってくださるのです。この方の助けをいただきながらこの働きを為すことができるのです。なぜ、最後にこのようなメッセージが記されているのでしょうか？マタイ1：23「その名はインマヌエルと呼ばれる。」とありました。この方はインマヌエルなる神、神は私たちとともにおられると。このように私たちを救うために来てくださった神、そして、私たちを救ってくださった神があなたとともにいると。何のために？弟子を作るためにです。あなたがこの命令に従うためにです。この命令を実践するためにです。「わたしはインマヌエルだ」とおっしゃった。「わたしはあなたとともにいる」と。このクリスマスに、信仰者の皆さん、思い出してください。これがあなたの責任だということです。これ以外のいろんなことを考えることができるかもしれませんが、でも、神があなたに求めていることは「弟子を作れ」です。主イエス・キリストの福音を語り弟子を作ることです。その人たちを訓練して彼らがみことばに従っていけるように訓練することです。「わたしはあなたとともにいる」と、そのように歩んでいますか？私たちの神は「インマヌエル」と呼ばれる神です。なぜなら、この方が私たちとともにいてくださるから。このクリスマスに是非このことを思い出してください。信仰者の皆さん、神が用いようとしているのはあなただということ、神が変えようとしているのはあなただということ。

愛する家族のために、友人のために、いろいろな所で出会う人々の救いのために、神はあなたを使っ
てくださるのです。そのために救われたのです。そのために主はこの世に来てくださった。どうして、
あなたや私が救われたのか？ どうぞ、しっかりそのことを覚えて、主の救いを感謝し、救いを誇る者
として主のメッセージを語り続けてください。この命令に従うことです。それが救われた私たちのこの
神に対する一番大きな責任です。

《考えましょう》

1. 「イエス」という名の意味を教えてください。
2. 主イエスはどのようにして救いを備えてくださいましたか？
3. どうして主イエスだけが罪を取り除くことができるのでしょうか？
4. 「処女降誕」という奇蹟が大切である理由をあなたのことばで記してください。